

徳島市水道事業 の 概要と現況



徳島市水道事業の概要と現況

目次

1.概要

- 拡張の歴史
- 第4期拡張事業以降

2.現況

- 水道施設の概要
- 応急給水施設
- 組織
- 人口及び給水量
- 水道料金及び財政
- 情報の発信と啓発活動の推進

徳島市水道事業の概要と現況

目次

1.概要

- 拡張の歴史
- 第4期拡張事業以降

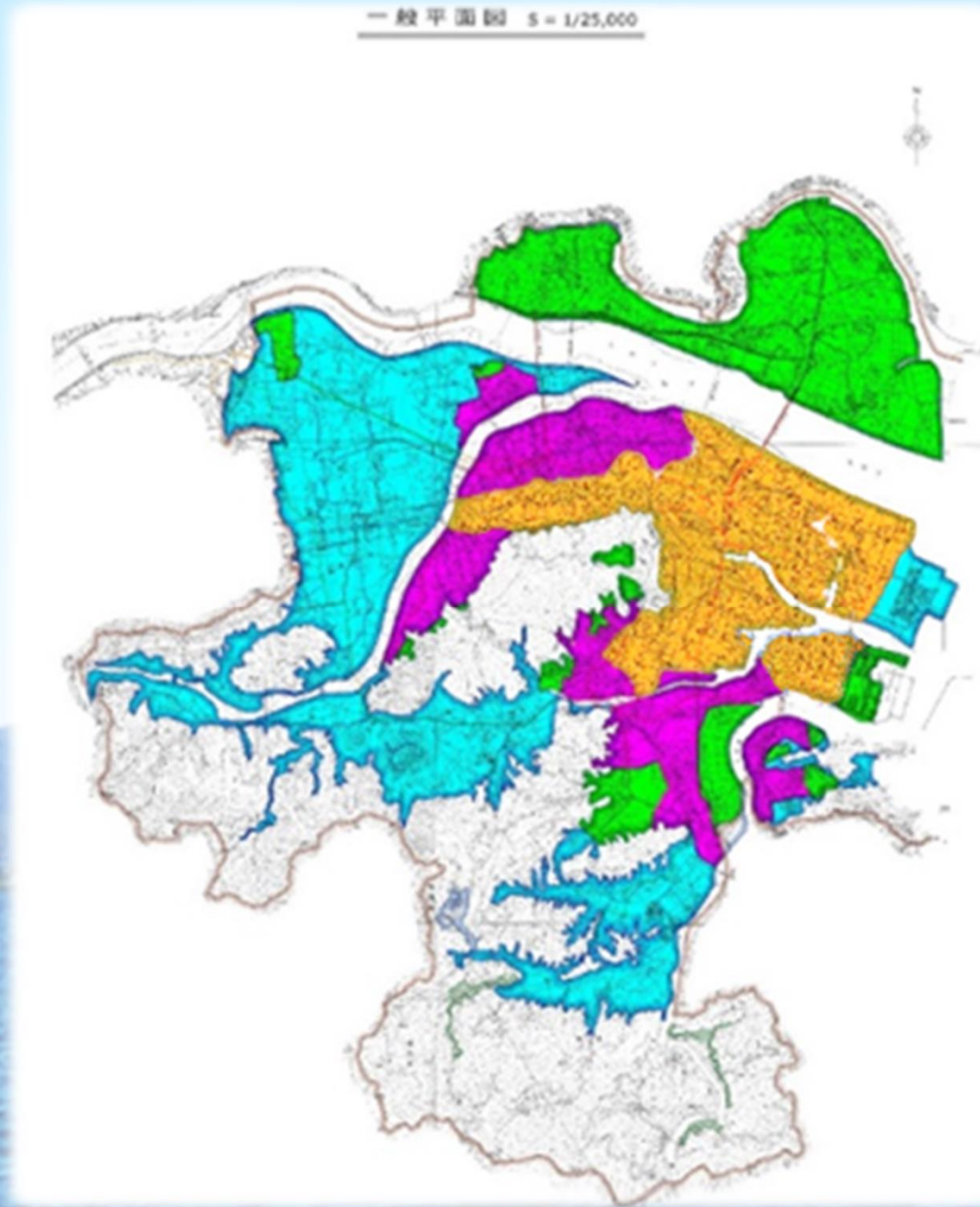
2.現況

- 水道施設の概要
- 応急給水施設
- 組織
- 人口及び給水量
- 水道料金及び財政
- 情報の発信と啓発活動の推進

水道事業の給水区域の広がり

1.概要

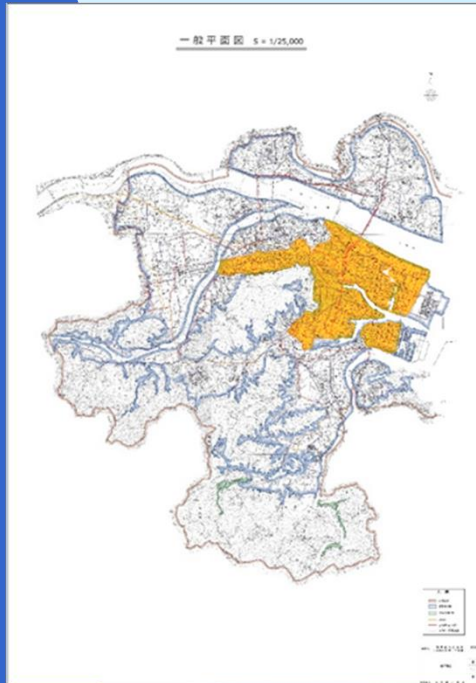
■ 拡張の歴史



水道事業の給水区域の広がり

1.概要

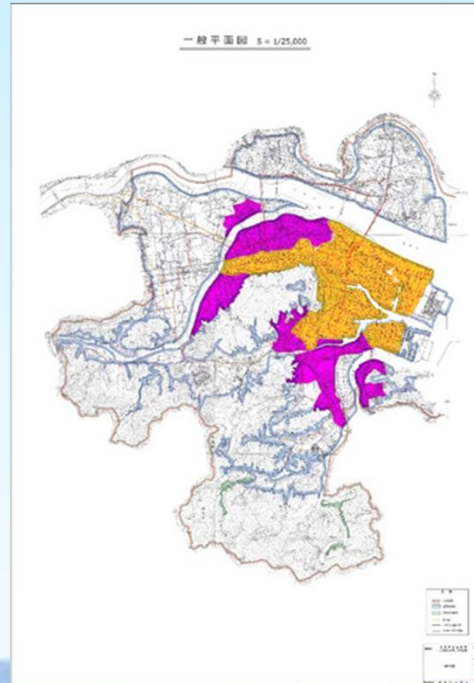
■ 拡張の歴史



創設期・第1期拡張

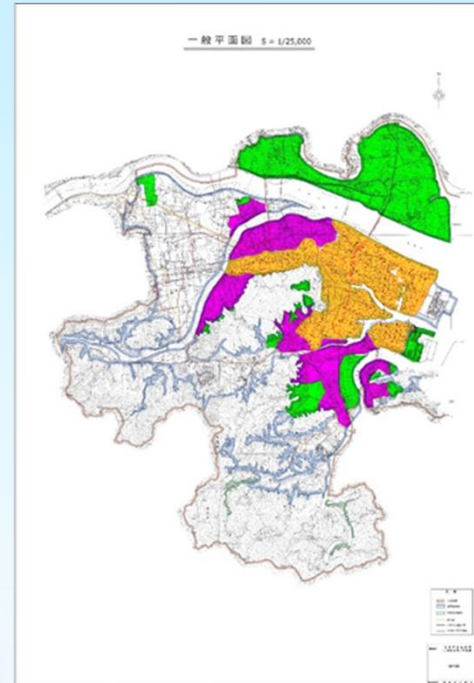
市内全域（徳島、福島、新町、佐古、富田浦、助任）、斎津村、沖洲村

第1期拡張（加茂名町、八万町、加茂町）



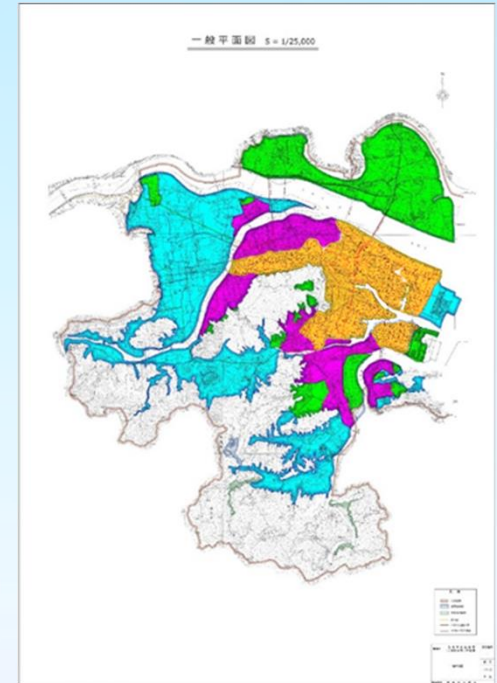
第2期拡張

（矢三町、南矢三町、八万町市原、橋本、犬山及び大野の各地区、南島田町、中島田町、春日町、論田町、大原町、名東町、不動本町、不動東町、不動西町、勝占町、西須賀町、三軒屋町、大松町、大谷町）



第3期拡張

（方上町、北山町、雑賀町、川内町、応神町、国府町佐野塚及び西黒田）



第4期拡張

（加茂名町、春日町、丈六町、渋野町、八多町、多家良町、上八万町、下町、一宮町、入田町、不動北町、国府町、名西郡神山町の各一部及び北沖洲四丁目地先南沖洲四丁目地先の各小松島港流通港湾建設事業造成地）

水道事業の給水区域の広がり

1.概要

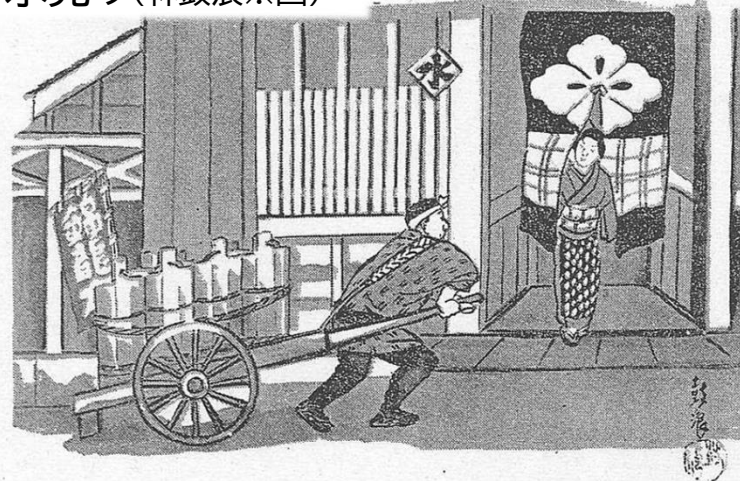
■ 拡張の歴史

創設以前



裏長屋の共同井戸(林鼓浪※画)

水売り(林鼓浪※画)



※林鼓浪
徳島市出身の
風俗画家



寺町の洗濯場(林鼓浪※画)



錦竜水(寺町)と八幡水(伊賀町・八幡神社)

水道事業の給水区域の広がり

1.概要

■ 拡張の歴史

水道普及率
28.7%

大正15年度創設期(給水能力8,800m³/日)

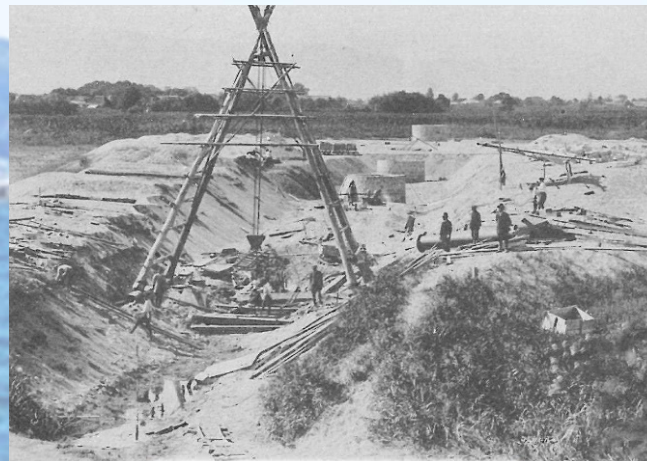
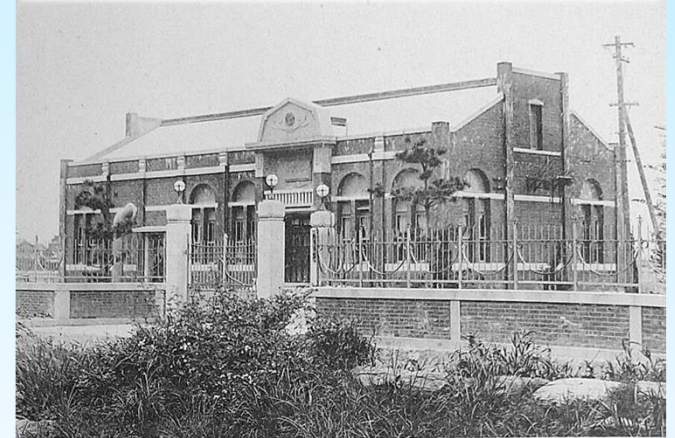
佐古山配水池流出配水管埋設工



導水管を埋設する伏越工事
(中鮎喰1925年)



濾過池第二卿筒場(佐古配水場)



水源工事(第1水源)



佐古配水場での通水祝賀会

水道事業の給水区域の広がり

1.概要

■ 拡張の歴史

被災した徳島市



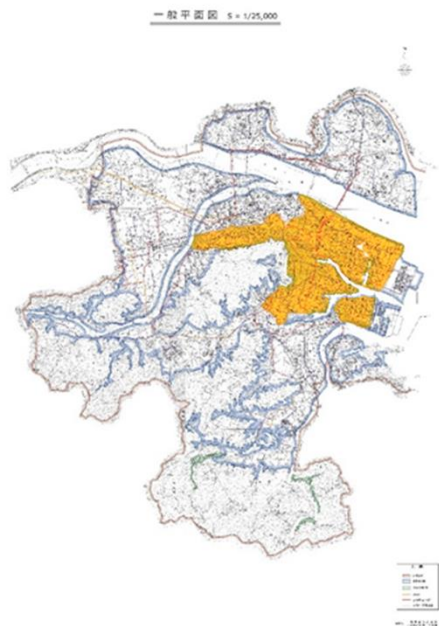
水道事業の給水区域の広がり

1.概要

■ 拡張の歴史

水道普及率
45.7%

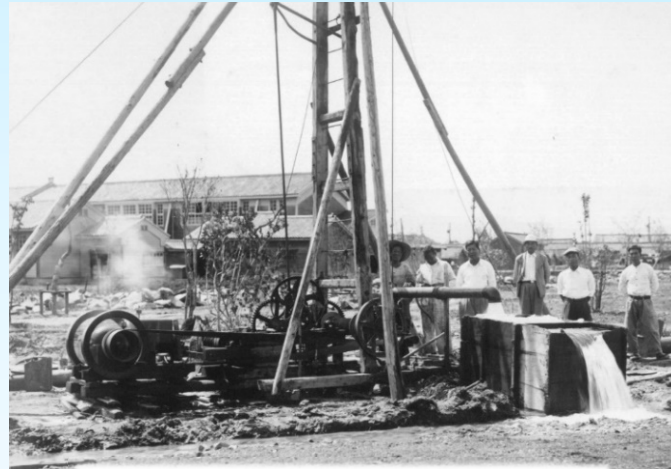
昭和28年度・第1期拡張(給水能力25,000m³/日)



創設期・第1期拡張

市内全域（徳島、福島、新町、佐古、富田浦、助任）、斎津村、沖洲村

第1期拡張（加茂名町、八万町、加茂町）



第3水源(蔵本公園)揚水試験



第3水源ポンプ室(1954年)



水道部庁舎(昭和30年代)



第3水源連絡管工事

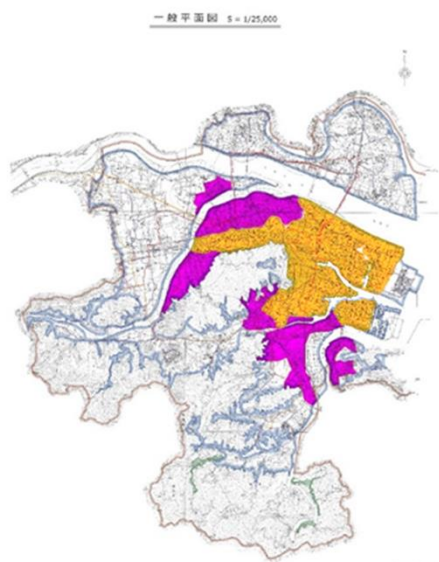
水道事業の給水区域の広がり

1.概要

■ 拡張の歴史

水道普及率
70.7%

昭和40年度・2拡張しゅん工(給水能力63,000m³/日)



第2期拡張

(矢三町、南矢三町、八万町市原、橋本、犬山及び大野の各地区、南島田町、中島田町、春日町、論田町、大原町、名東町、不動本町、不動東町、不動西町、勝占町、西須賀町、三軒屋町、大松町、大谷町)



城山配水池しゅん工(1963年)



かちどき橋水管橋



竣工式・当時の第十浄水場前

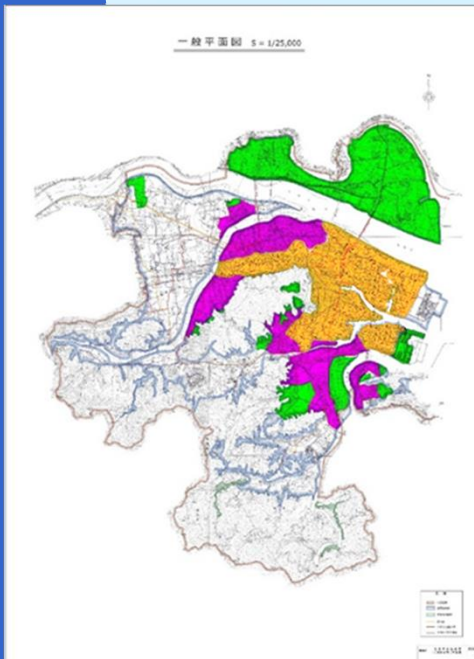
水道事業の給水区域の広がり

1.概要

■ 拡張の歴史

水道普及率
78.3%

昭和54年度・3拡張しゅん工(給水能力153,000m³/日)



第3期拡張

(方上町、北山町、雑賀町、
川内町、応神町、国府町佐野塚
及び西黒田)

西の丸配水場調整池建設状況(配筋工・基礎杭工)(1971年)



法花谷配水場建設工事(1974年)



鮎喰橋水管橋

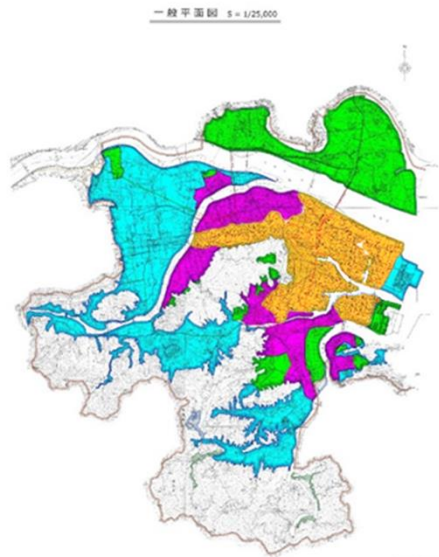
水道事業の給水区域の広がり

1.概要

■ 拡張の歴史

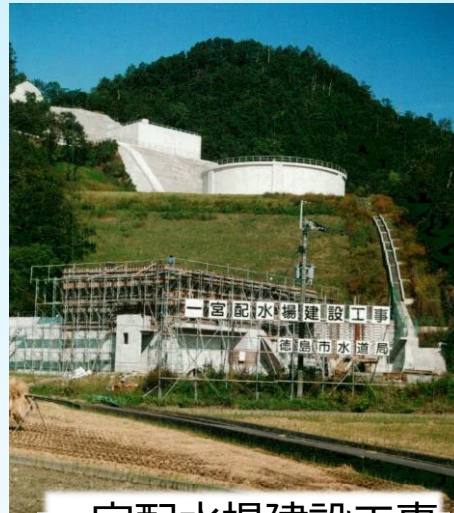
水道普及率
91.8%

平成21年度・4拡張しゅん工(給水能力169,050m³/日)

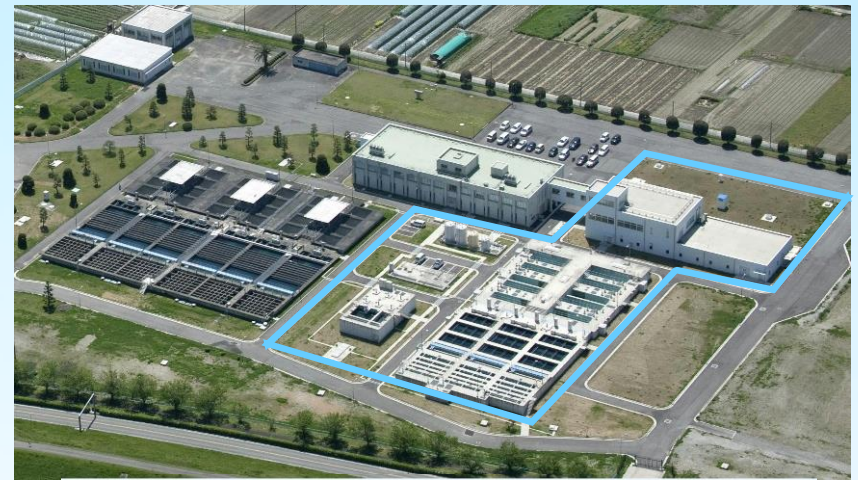


第4期拡張

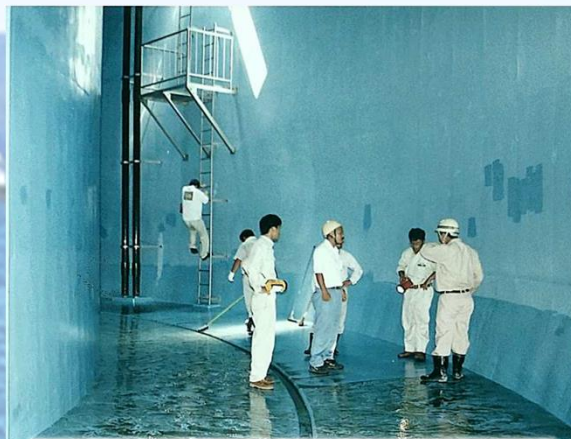
(加茂名町、春日町、丈六町、
渋野町、八多町、多家良町、上
八万町、下町、一宮町、入田町、
不動北町、国府町、名西郡神山
町の各一部及び北沖洲四丁目地
先南沖洲四丁目地先の各小松島
港流通港湾建設事業造成地)



一宮配水場建設工事



第十浄水場2系浄水施設(2010年)



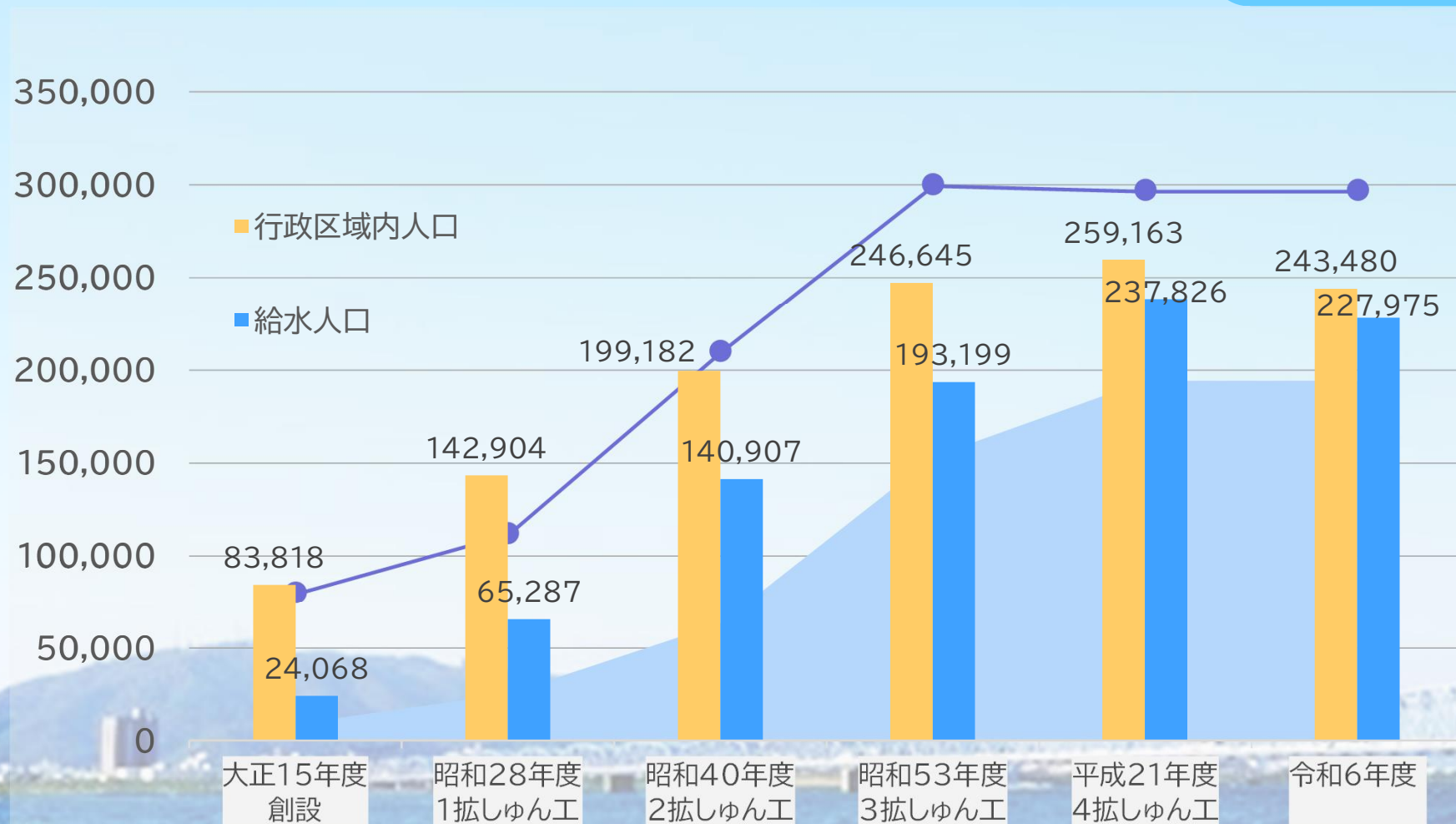
一宮配水場(低区)配水池内

- 市民皆水道を目指す
- 水道水源を吉野川に求める
- ライフラインとしての水道の安定性強化

水道事業の給水区域の広がり

1.概要

■ 拡張の歴史



計画1日最大給水量(m3)	8,800	25,000	63,000	153,000	193,900	
計画給水人口(人)	80,000	112,000	210,000	300,000	297,000	
普及率(%)	28.7	45.7	70.7	78.3	91.8	93.6

環境対策と省エネルギー対策

1.概要

■ 第4期拡張事業以降

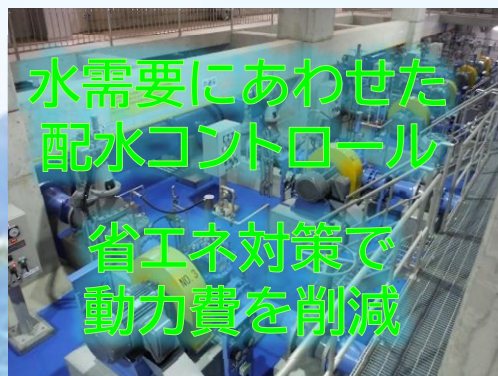


446戸分の電力量

大規模太陽光発電設備(1.5MW)
自家用太陽光発電(500kW)

太陽光
発電の
建設

環境にやさ
しい浄水場
づくり



水需要にあわせた
配水コントロール

省エネ対策で
動力費を削減

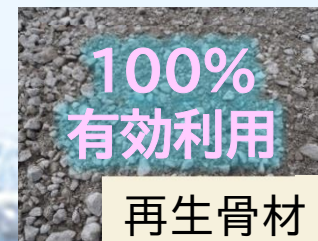
共通系送水ポンプ

CO2の削
減対策



高効率天日乾燥施設

浄水発
生土のリ
サイクル



100%
有効利用

再生骨材

環境対策と省エネルギー対策

1.概要

■ 第4期拡張事業以降

地球温暖化対策計画・脱炭素化事業



大規模太陽光発電設備(1.5MW)
自家用太陽光発電(500kW)

太陽光
発電の
建設



高効率天日乾燥施設

環境にやさ
しい浄水場
づくり

浄水発
生土のリ
サイクル



再生骨材



共通系送水ポンプ

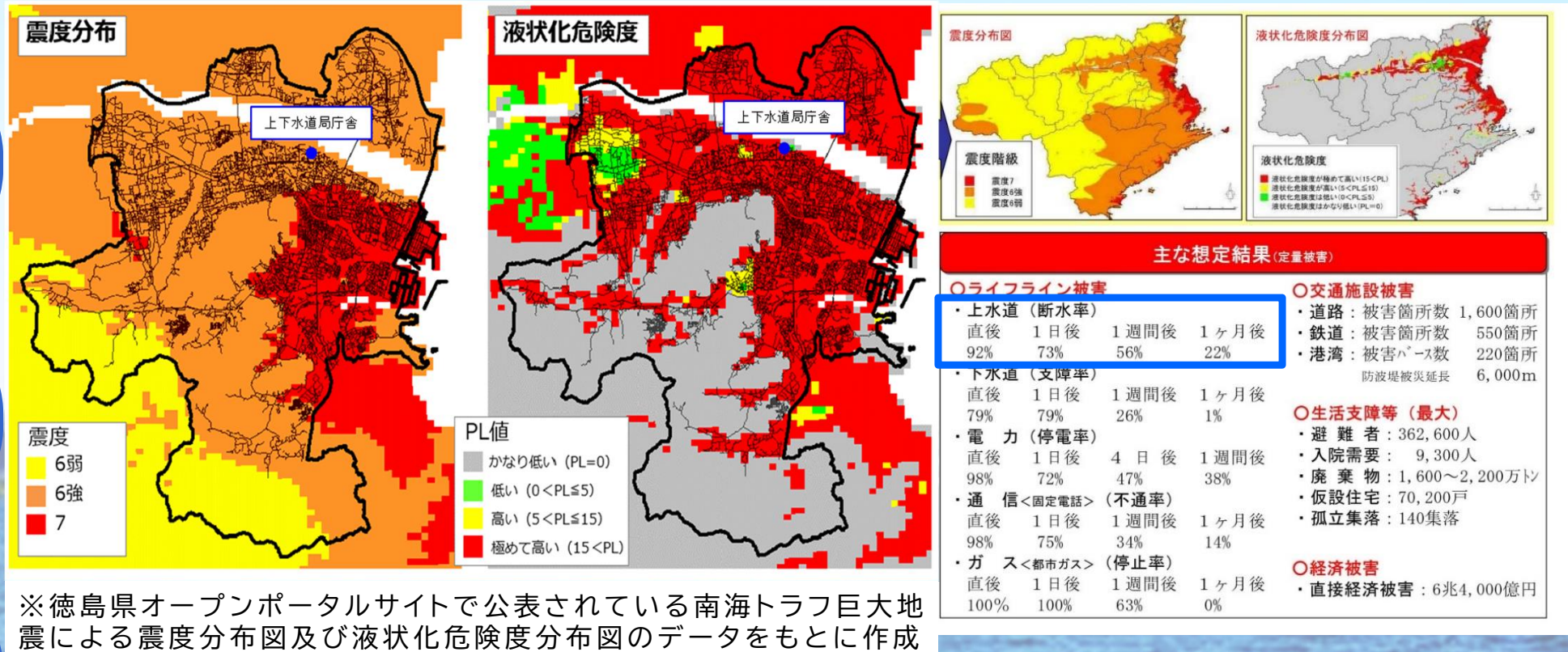
CO2の削
減対策

南海トラフ巨大地震への対策 (地震に強い水道を目指して)

1.概要

■ 第4期拡張事業以降

南海トラフ巨大地震による 徳島市の震度分布と液状化危険度



南海トラフ巨大地震への対策 (地震に強い水道を目指して)

1.概要

■ 第4期拡張事業以降

徳島市 水道施設 耐震化 計画

耐震管ループの構築

配水場バックアップ管路の整備

重要給水施設配水管の耐震化

南海トラフ巨大地震への対策 (地震に強い水道を目指して)

1.概要

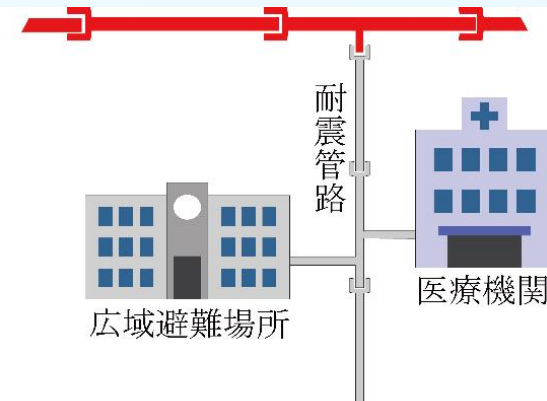
■ 第4期拡張事業以降

● 耐震管ループ及び配水場バックアップ管路



重要給水施設配水管

耐震管ループ・ 配水場バックアップ管路



耐震管ループと配水場バックアップ管路を起点として、広域避難場所や医療機関などを結ぶ配水管。

※重要給水施設配水管とは、基幹病院等の給水優先度の高い施設に水道水を配水する配水管をいう。

■ 第4期拡張事業以降

●重要給水施設配水管及び耐震管ループ

種別	箇所数
学校	18
病院	13
官公署	10
公園	4
グラウンド	2
合同庁舎	1
防災館	1
保健所	1

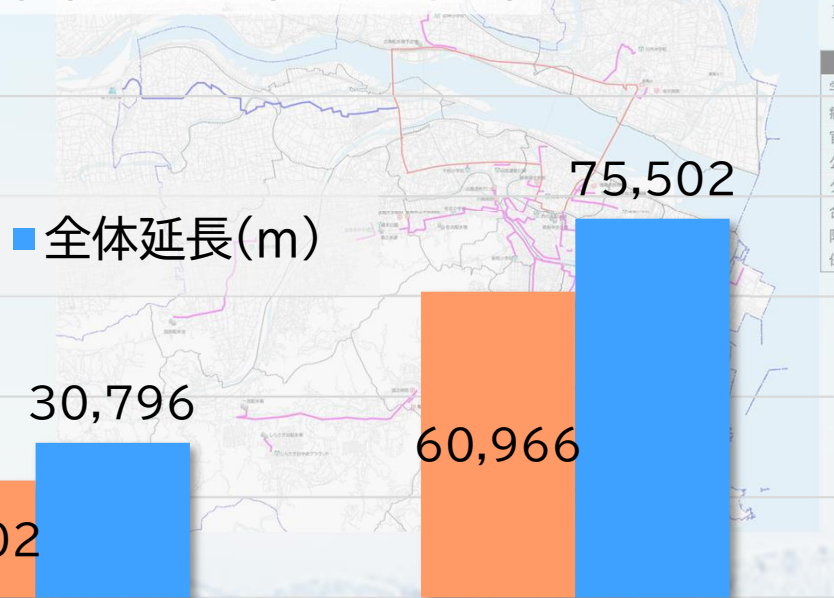
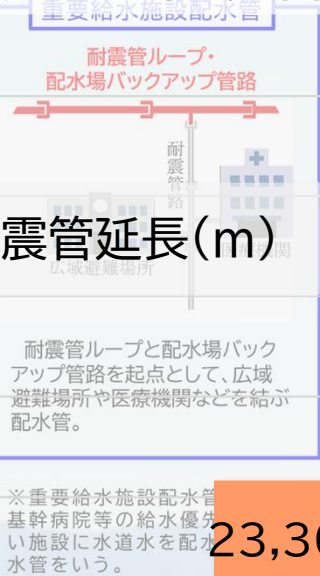
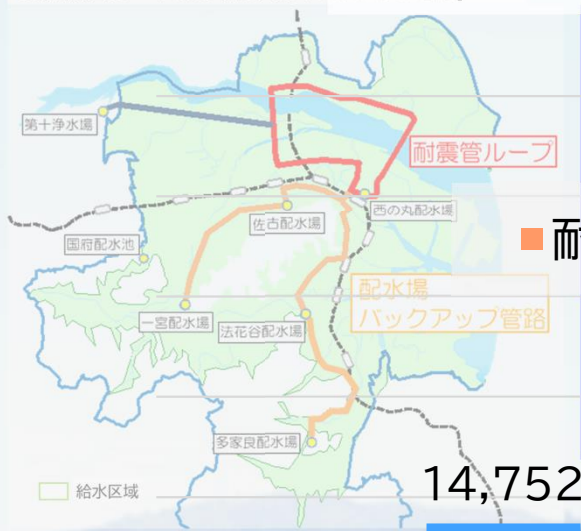
南海トラフ巨大地震への対策 (地震に強い水道を目指して)

1.概要

■ 第4期拡張事業以降

3施策の延長及び耐震管率(2025年7月時点)

●耐震管ループ及び配水場バックアップ管路



重要給水施設
50か所

種別	箇所数
学校	18
病院	13
官公署	10
公園	4
グラウンド	2
合同庁舎	1
防災館	1
保健所	1

耐震管率

耐震管ループ

85.8%

配水場バックアップ管路

75.7%

重要給水施設配水管

80.7%

徳島市水道事業の概要と現況

目次

1.概要

- 拡張の歴史
- 第4期拡張事業以降

2.現況

- 水道施設の概要
- 応急給水施設
- 組織
- 人口及び給水量
- 水道料金及び財政
- 情報の発信と啓発活動の推進

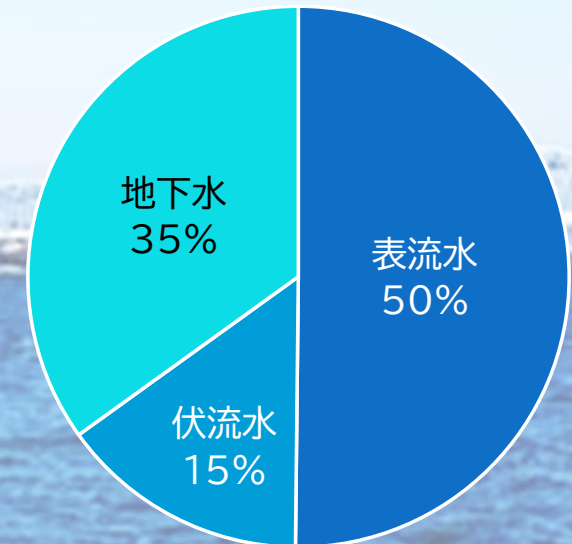
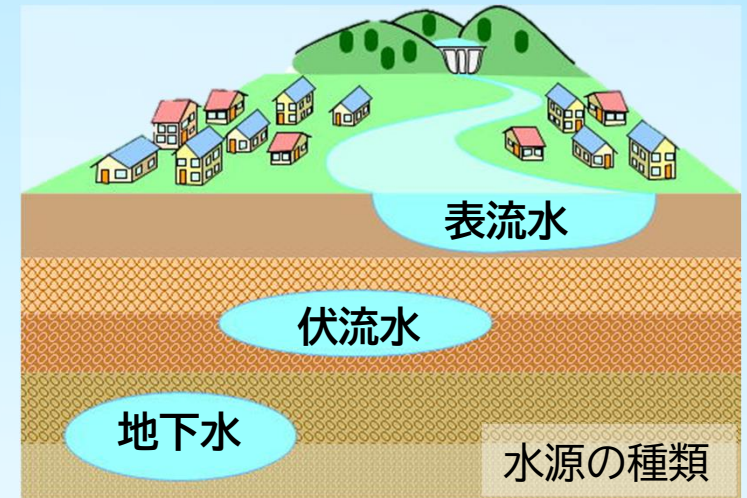
水源の状況

2.現況

■ 水道施設の概要

水源	種別	場所	浄水方法	公称能力 (m ³ /日)
第2水源	地下水	佐古配水場内	塩素消毒	2,600
第3水源	地下水	県立公園内	塩素消毒	4,140
第4水源	伏流水	吉野川河川敷	鉄・マンガン除法＋ 塩素消毒	40,000
第5水源	地下水	第十浄水場内	塩素消毒	13,200
第6水源	表流水	吉野川河川敷	凝集沈殿＋急速ろ過＋塩素消毒	94,050
第7水源	地下水	第十浄水場内	塩素消毒	15,000
計				168,990

※上記以外に、予備水源として第1水源(地下水)がある。



令和6年度年間取水量
3,290万m³

表流水 1,650万m³
伏流水 490万m³
地下水 1,149万m³

水源と取水

2.現況

■ 水道施設の概要



第十浄水場

第十浄水場(だいじゅうじょうすいじょう)

- 徳島市唯一の浄水場
- 第十浄水場の浄水処理能力(公称能力)
約16万 m^3 /日
- 全給水量の約96%を浄水処理
- 吉野川水系の水源(表流水、伏流水、地下水)
から取水

徳島市上下水道事業PR動画

2.現況

■ 水道施設の概要

制作：四国大学経営情報学部メディア情報学科（4班）

徳島市第十浄水場の紹介 ～水が綺麗になるまで～



管路施設

2.現況

■ 水道施設の概要

送水施設(そうすいしせつ)

浄水場から配水池までに浄水を送る施設をいい、調整池、送水ポンプ、**送水管**、送水トンネル及びその付帯施設である。

導水施設(どうすいしせつ)

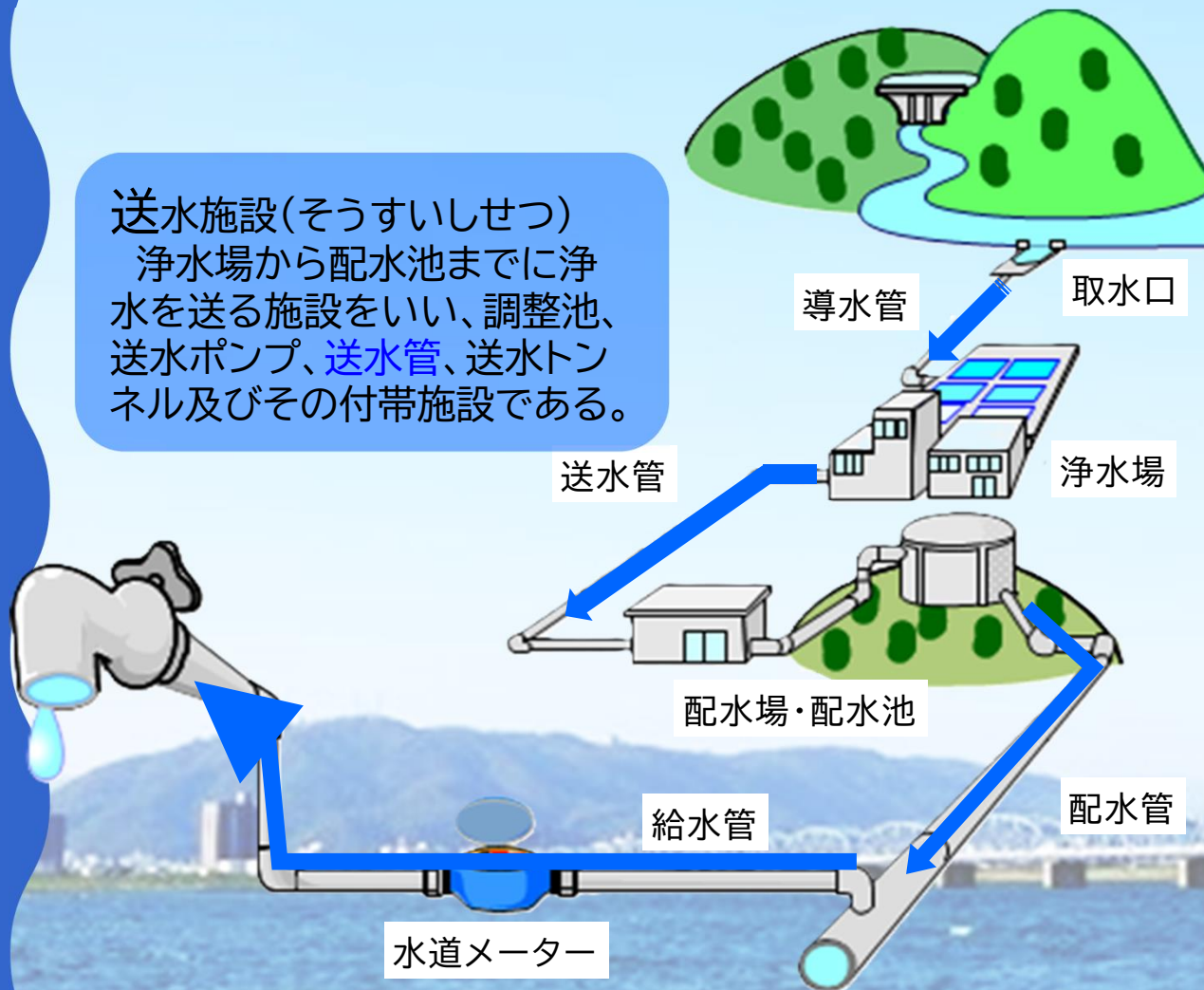
取水施設を経た水を浄水場まで導く施設で、主要なものは、導水路(導水渠、**導水管**)、導水ポンプ、原水調整池などである。

配水施設(はいすいしせつ)

配水池、配水塔、高架タンク、**配水管**、ポンプ及びバルブ、その他の付属設備から構成される配水のための施設。

給水装置(きゅうすいそうち)

水道水の利用者に水を供給するために配水管から分岐して設けられた**給水管**及びこれに直結した給水用具。



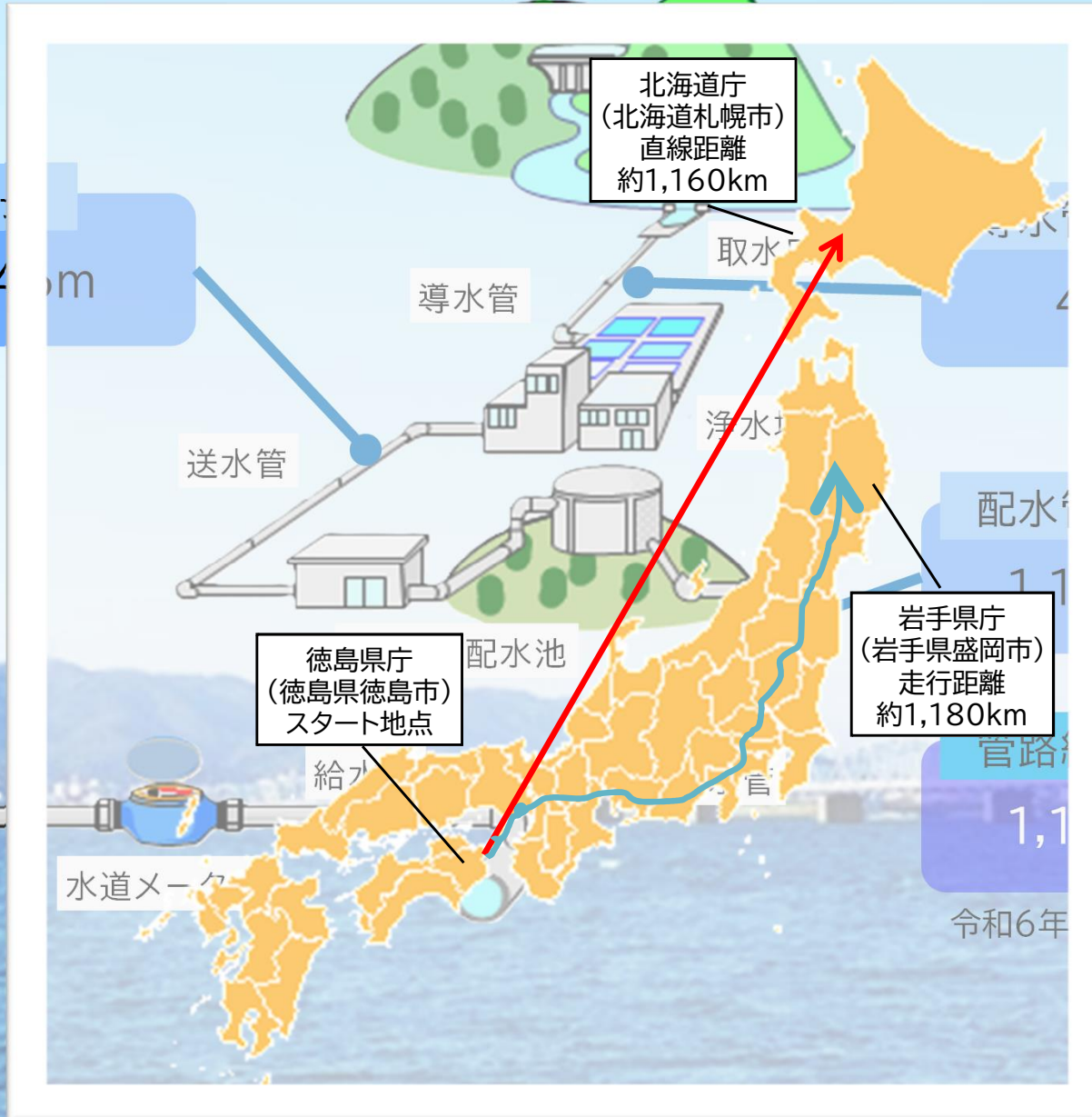
管路施設

2.現況

■ 水道施設の概要

送水管延長

63,540m



延長

259m

配水管延長

1,303m

官路延長

1,109,108m

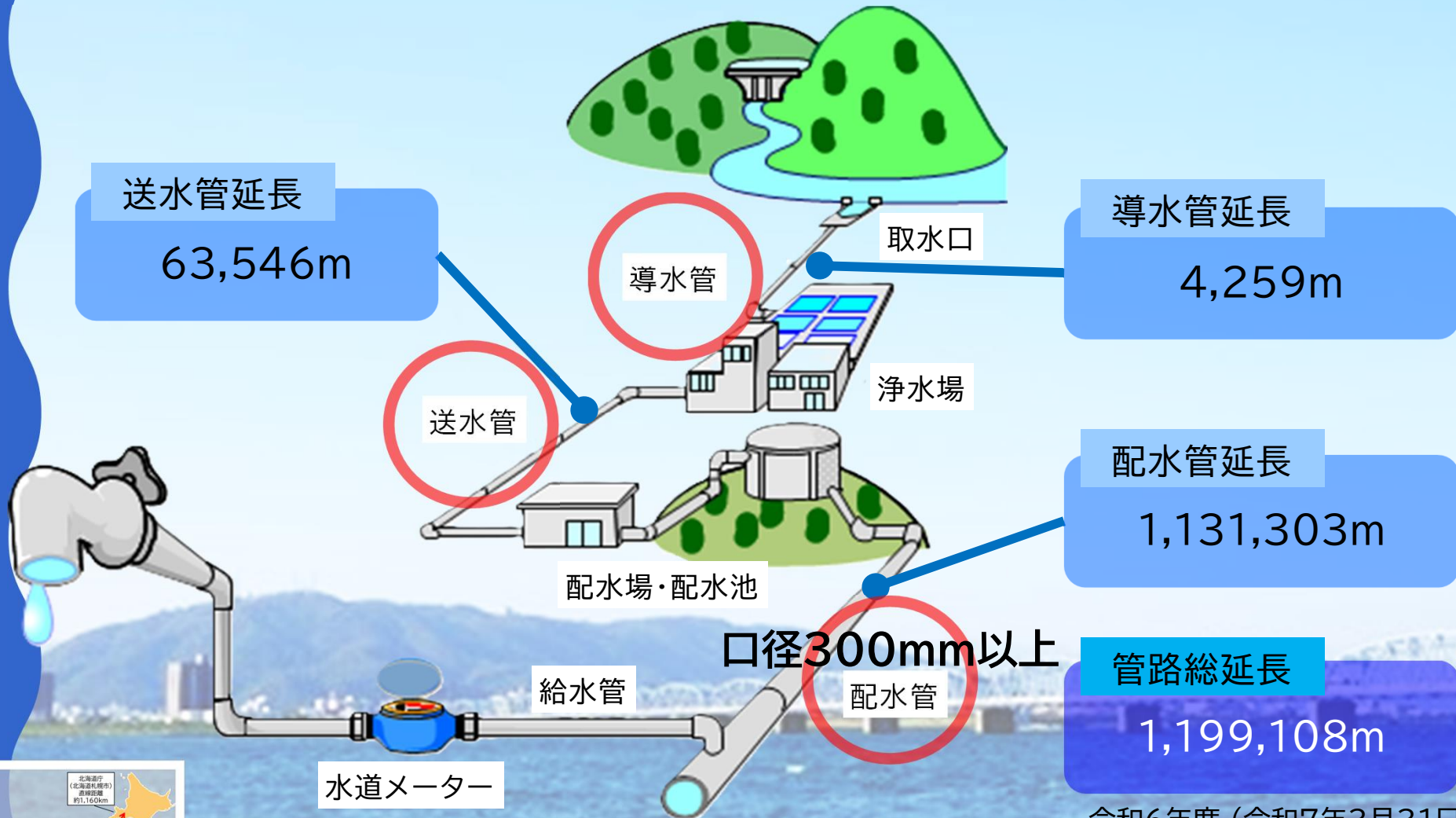
令和6年度 (令和7年3月31日現在)

管路施設

基幹管路

2.現況

■ 水道施設の概要



令和6年度（令和7年3月31日現在）

- 基幹管路耐震管率
R5度51.5%
R6度52.5%(暫定値)



主要な施設及び配水ブロック

2.現況

■ 水道施設の概要

佐古配水場



佐古山配水池



城山配水池・西の丸配水場



法花谷配水場



名 称	しゅん工年月	容 量 (m ³)	
佐古配水場	1926 (大正15) 年 9 月	調整池	5,000
佐古山配水池	1926 (大正15) 年 9 月	配水池	4,200
城山配水池	1963 (昭和38) 年12月	配水池	5,000
西の丸配水場	1971 (昭和46) 年 7 月	調整池	11,000
法花谷配水場	1974 (昭和49) 年12月	配水池	10,000
		調整池	10,000
国府配水池	1994 (平成 6) 年 5 月	配水池	6,500
一宮配水場	1998 (平成10) 年 9 月	高区配水池	1,320
		低区配水池	5,600
多家良配水場	2001 (平成13) 年 3 月	配水池	1,900

国府配水池



一宮配水場



多家良配水場



●配水池(はいすいち)

給水区域の需要量に応じて適切な配水を行うために、浄水を一時貯える池。

給水区域の中央付近に設置し、適当な高所が得られれば自然流下方式で配水するのが理想的である。

●調整池(ちょうせいち)

送水量の調整や異常時の対応を目的として浄水を貯留する池。

送水施設の一部であり、送水施設の途中または末端に設置される。

主要な施設及び配水ブロック

2.現況

■ 水道施設の概要

佐古配水場 5,000m³



国府配水池 6,500m³



一宮配水場 1,320m³(高区)5,600m³(低区)



多家良配水場 1,900m³



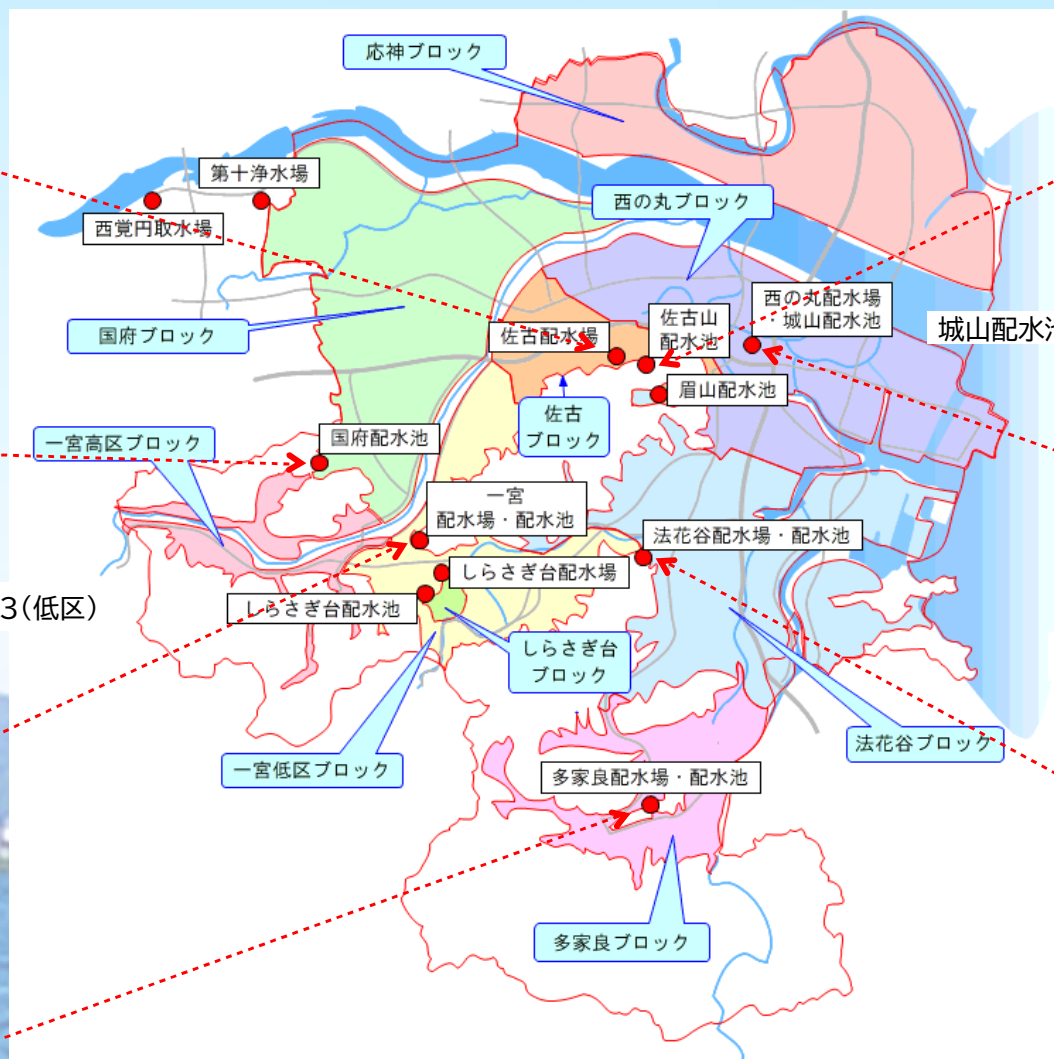
佐古山配水池 4,200m³



城山配水池 5,000m³・西の丸配水場 11,000m³



法花谷配水場 2,000m³(配水池・調整池)



応急給水施設 (飲料水兼用耐震性貯水槽)

2.現況

■ 応急給水施設



蔵本公園(100m³)



新町川公園(150m³)



津田小学校(100m³)



中前川耐震性貯水槽(40m³)

耐震性貯水槽 (たいしんせいちょすいそう)

地震対策として応急給水を確実に実施するために、地震時の外圧などに対し、十分な耐震、耐圧設計によって築造された飲料水を貯留する施設。

耐震性貯水槽は、普段は水道管の一部として使われていますが、災害時に水道管が破損した場合は、自動的に緊急遮断弁が作動し、貯水槽内に水が留まる仕組みになっています。

組 織

2.現況

■ 組 織

上下水道局

総務課

総務係・職員係・契約係・情報管財係

経営企画課

企画係・広報広聴係・財務第一係・財務第二係

お客様センター

業務管理係・給水装置係・量水器係・普及指導係

水道整備課

管理係・計画係・施設耐震係・改良係・整備第一係・整備第二係

水道維持課

管理係・維持計画係・維持第一係・維持第二係

浄水課

管理係・浄水計画係・浄水施設係・浄水係
水質検査室

工事検査監

下水道整備課

計画係・維持第一係・維持第二係・整備係・設備係

中央浄化センター

北部浄化センター

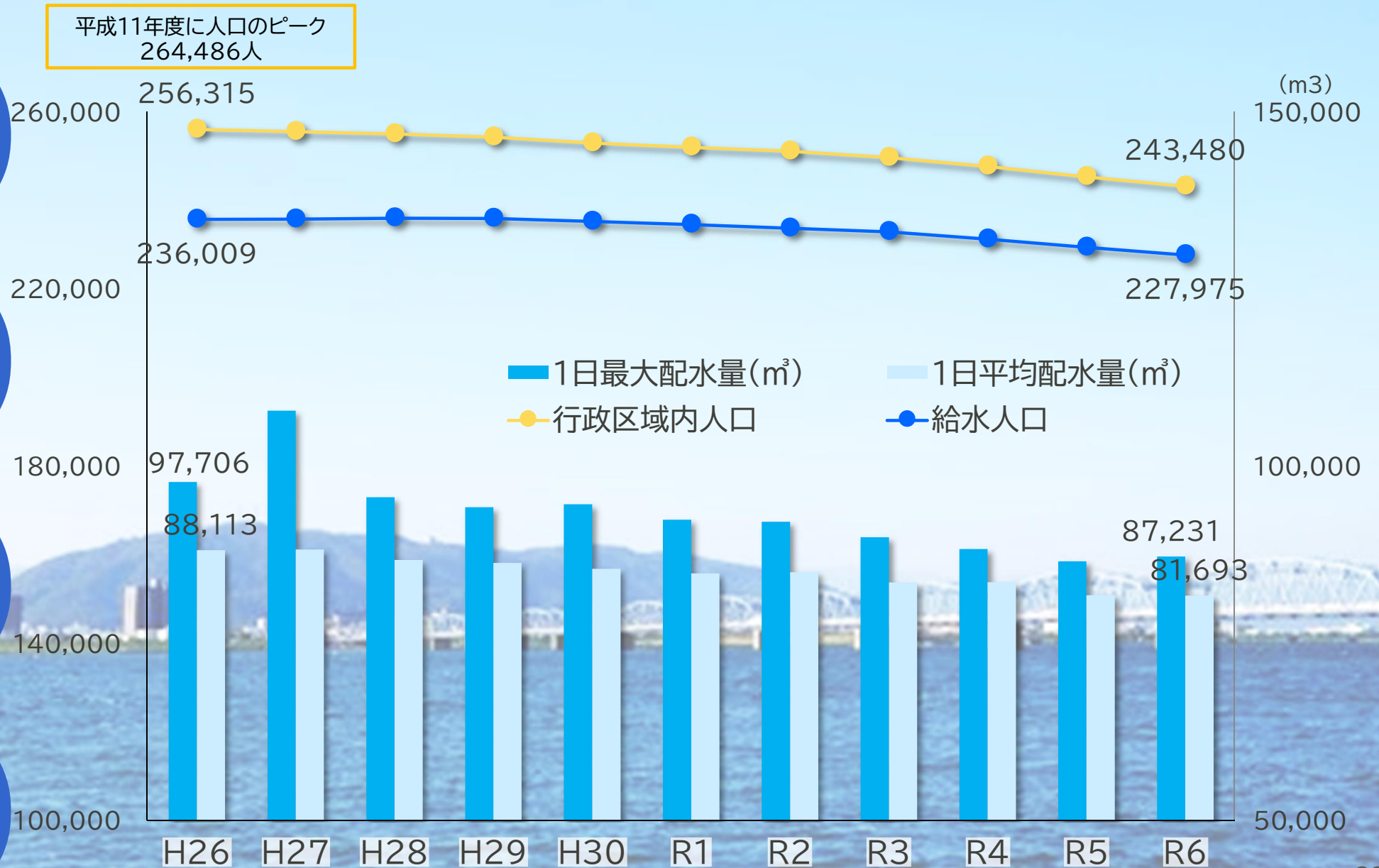
	人数
管理者	1
理事	1
次長	1
水道事業	126
下水道事業	64
計	193

※再任用職員及び会計
年度任用職員は除く。
(令和7年4月現在)

人口及び給水量

2.現況

■ 人口及び給水量



水道料金表

2.現況

■ 水道料金及び財政

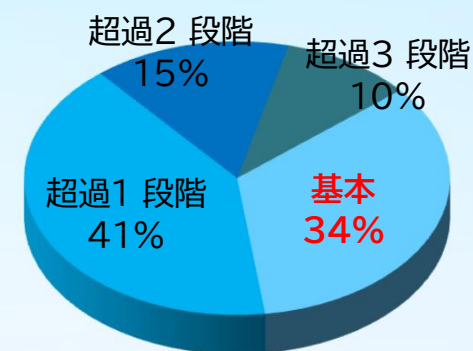
本市水道料金表(1戸または1事業、1か月、税込)

用 途		使 用 水 量	料 金
一般用	基本料金	8 m ³ まで	6 4 8 円
	従量料金	8 m ³ を超え 2 0 m ³ まで 1 m ³ につき	1 4 3 円
		2 0 m ³ を超え 3 0 m ³ まで 1 m ³ につき	1 7 8 円
		3 0 m ³ を超えるもの 1 m ³ につき	2 2 4 円
湯屋用	基本料金	2 0 0 m ³ まで	7,1 5 0 円
	従量料金	2 0 0 m ³ を超え 1,0 0 0 m ³ まで 1 m ³ につき	7 3 円
		1,0 0 0 m ³ を超えるもの 1 m ³ につき	1 4 3 円
特殊用	基本料金		1,3 2 0 円
	従量料金	1 m ³ につき	2 2 4 円

備考

- 1 この表において「一般用」とは、湯屋用及び特殊用以外の用に水道を使用するものをいいます。
- 2 この表において「湯屋用」とは、公衆浴場の確保のための特別措置に関する法律(昭和56年法律第68号)第2条に規定する公衆浴場に使用するものをいいます。
- 3 この表において「特殊用」とは、船舶給水、プール給水及び臨時の用に使用するものをいいます。

令和6年度 段階別使用水量



●水道メーター13mm で1 か月の料金比較(税込)

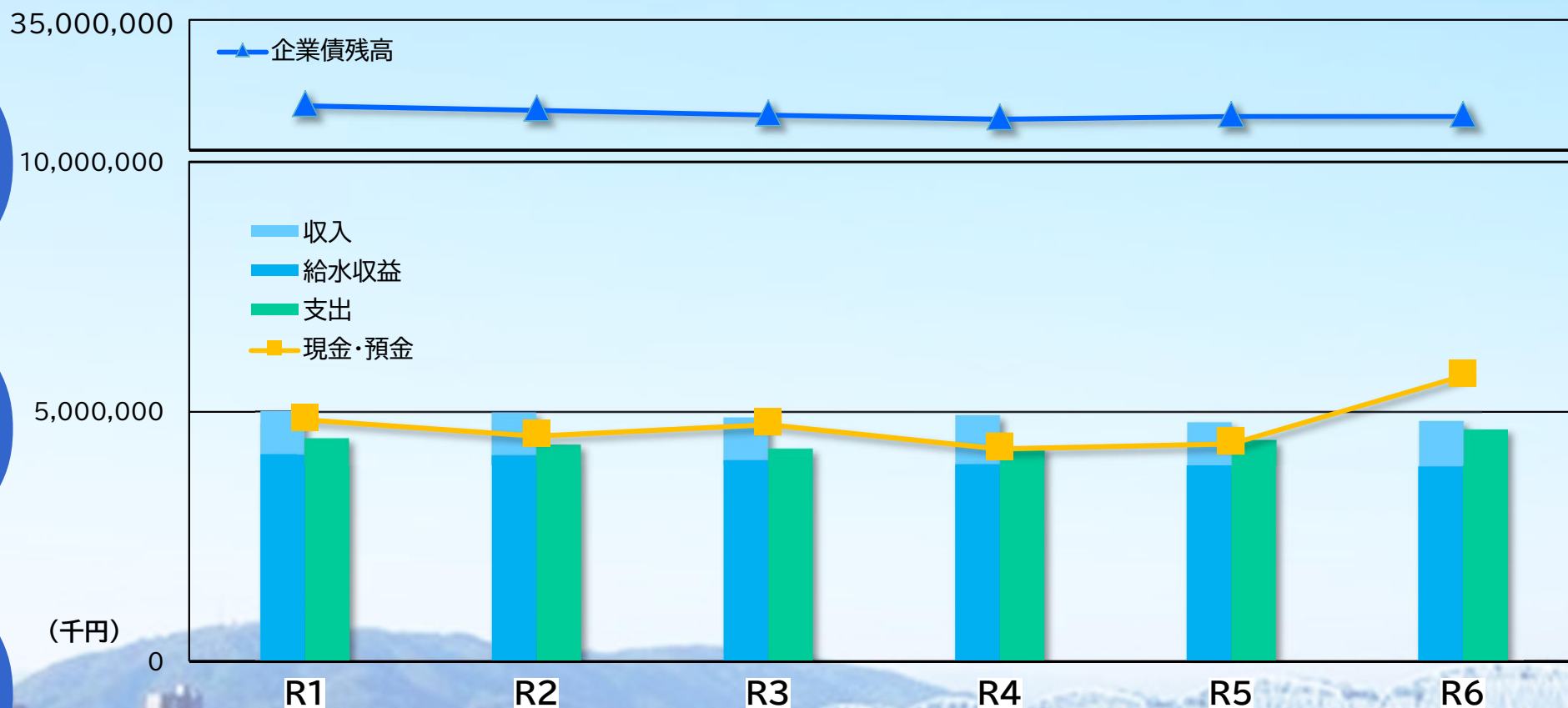
(令和5 年4 月1 現在、日本水道協会発行の資料参考)

水道料金比較	徳島市	県庁所在都市47 都市 平均	県庁所在地最低料金	県庁所在地最高料金
10 m ³ 使用時	1,007 円 7 番目(安い)	1,282 円	731 円(名古屋市)	2,299 円(福島市)
20 m ³ 使用時	2,437 円 6 番目(安い)	2,789 円	2,112 円(大阪市)	4,515 円(長崎市)

財政状況

2.現況

■ 水道料金及び財政



収入	5,003,584	4,972,387	4,873,390	4,921,321	4,776,277	4,801,617
給水収益	4,136,773	4,125,276	4,025,830	3,946,275	3,913,246	3,889,614
支出	4,462,998	4,336,379	4,257,463	4,280,428	4,427,273	4,636,032
純利益(税抜)	540,586	636,008	615,927	640,893	349,004	165,585
現金・預金	4,871,795	4,548,585	4,777,564	4,290,117	4,391,788	5,758,474
企業債残高	18,891,031	18,050,349	17,086,026	16,315,875	16,861,416	16,874,945

1. 経営戦略とは

本市では、2019（平成31）年3月に経営戦略を含めた「徳島市水道ビジョン2019」（以下「現行ビジョン」という。）を策定し、経営に取り組んでいます。しかし、水道事業を取り巻く環境は絶えず変化を続けています。この変化に対応するため、現行ビジョンのうち、2025（令和7）年度以降の経営戦略について見直しを行い、中長期的な事業の指針であり、基本計画となる「徳島市水道事業経営戦略」を策定しました。

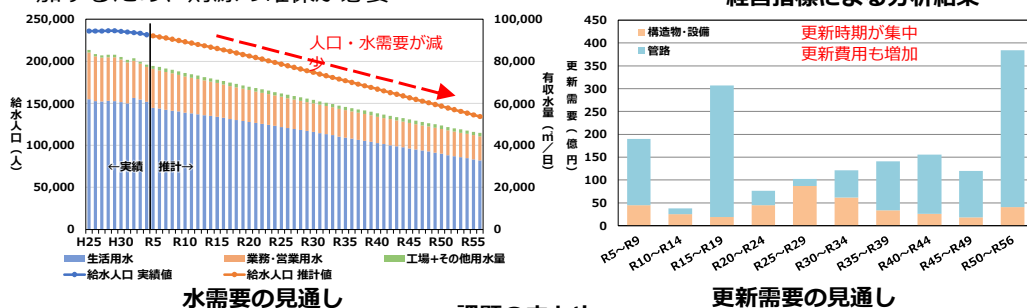
2. 本市の状況

○現状

- 経営の健全性を表す指標は比較的良好だが、低下傾向
- 企業債の依存度が高い水準にあり、改善が必要
- 施設能力の適正化（ダウンサイジング）を図りながら、施設や管路の計画的な更新が必要

○将来見通し

- 人口減少に伴い、水需要も減少する見通し
- 構造物・設備・管路の更新時期が集中し、更新費用も増加するため、財源の確保が必要



課題のまとめ

視点	問題	主な課題 (今後対応すべき点)
安全	・給水栓水質検査（毎日）箇所密度や鉛製給水管率は目標に達していない ・PFAS（有機フッ素化合物）への対応	適切な浄水処理の実施 水質管理の強化
強靱	・施設や管路の耐震化率は目標に達していない ・管路の更新率低下 ・施設や管路の更新時期が集中し、更新費用も増加 ・将来における水需要が減少	更新・耐震化の促進 施設の適正化 (平準化・ダウンサイジング)
持続	・企業債への高い依存度 ・将来における水需要の減少（給水収益は減少） ・熟練技術を伝えるべき若手職員の減少 ・今後の職員数減少 ・新たな官民連携方式への対応	更新投資の財源確保 業務の効率化 技術継承の実施 官民連携の検討 広域連携の検討

3. 将来像

現行ビジョンの将来像「未来につなぐ水都とくしまの水道」や目標等を継承し、事業運営に取り組んでいきます。

4. 今後の投資・財政計画

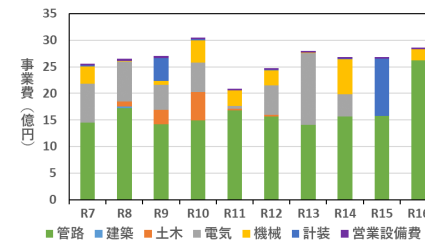
将来像を実現し、次世代に水道を引き継いでいくために、今後10年間の投資計画と、その財源を確保するための財政計画を策定しました。

○投資計画

耐震化、適正化及び長寿命化の3つの視点で施設整備に取り組み、大規模地震による被害の最小化や施設・管路の長寿命化を図ります。

（投資計画の内訳）

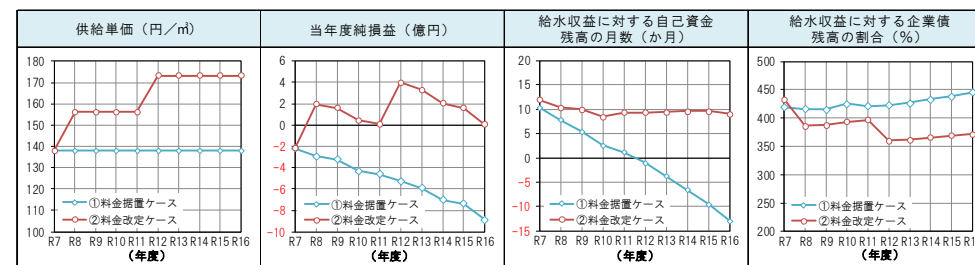
- 取水・浄水施設の設備更新
- 基幹となる主な配水池・調整池の耐震化
⇒災害時の必要水量確保に努める
- 配水池・調整池の廃止
⇒水需要減少を考慮した施設能力の適正化
- 基幹管路を中心に耐震化・長寿命化
⇒水道水の安定供給の強化



○財政計画

策定にあたり、2ケースでの見通しをシミュレーションしています。

料金据置とするケースでは、事業が継続できなくなる見込みです。一方、料金改定を行うケースでは、2026（令和8）年度に13%、2030（令和12）年度に11%の改定を行うことで、企業債残高を増加させることなく、事業継続が可能となる見込みです。



○投資・財政計画を実行していくための取組

(1) 民間活力の導入の検討

本市として、職員数が減少する見通しのなかで、継続して事業を運営していくために、多様な官民連携手法の導入について、今後も可能性を検討していきます。

(2) 料金体系の検討

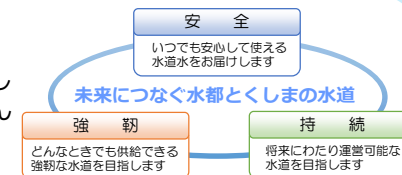
料金改定と併せて、今後の料金体系のあり方について、研究していきます。

(3) 広域連携の検討

将来を見据えた連携を自ら模索し、平常時や災害時にも機能する広域連携の枠組みを、徳島県全体で検討していく必要があります。

(4) 水道水利用の啓発

給水スポットを設置し、本市の水道水の美味しさをアピールしていきます。



水道水利用の啓発と水道事業の周知

2.現況

- 情報の発信と啓発活動の推進



第十浄水場施設見学会(水道週間)



水道教室



広報紙の発行

令和6年度
第4回徳島市インターネットアンケート結果

調査テーマ	調査期間	調査対象	回答者数	割合
水道水の使用状況等に関する調査について	令和6年12月2日(月曜)～令和7年1月31日(金曜)	127人		

注：割合(%)は有効回答の総数や小数点第2位以下四捨五入のため、割合の合計が100%にならない場合があります。

■ アンケート調査結果
あなたの性別を選択してください。

性別	回答数	割合
1 男性	88	69.3%
2 女性	39	30.7%
3 未選択	0	0.0%
合計	127	100.0%

あなたのご住所を選択してください。

住所	回答数	割合
1 徳島市内	121	95.3%
2 徳島市外(山形県内各町・市)	4	3.1%
3 未選択	2	1.6%
合計	127	100.0%

あなたのご職業を選択してください。

職業	回答数	割合
1 専業主婦・主夫	25	19.7%
2 学生	21	16.5%
3 その他	17	13.4%
4 未選択	4	3.1%
合計	67	52.7%

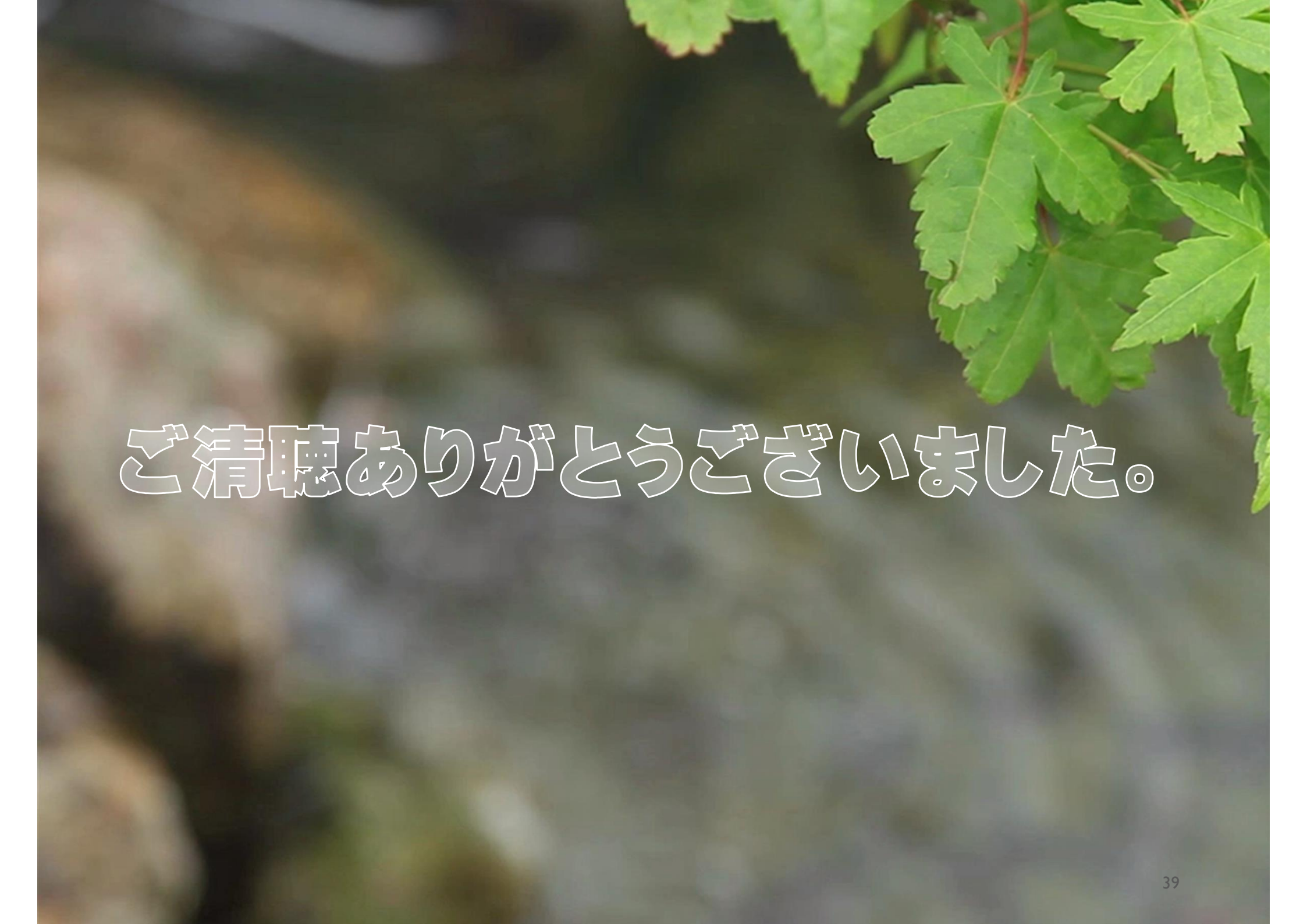
市民アンケートの実施

学生との連携による広報活動と最近の取組

2.現況

- 情報の発信と啓発活動の推進





ご清聴ありがとうございました。